

長寿社会ライフスタイル研究会の活動

第1回 長寿社会ライフスタイル研究会

日時：2012年7月12日

1. 「高齢者のタンパク質・アミノ酸栄養」

大島曜

味の素(株)

- 新しい栄養失調(若い女性、高齢者のタンパク質栄養状態の悪化傾向)がみられる
- 自分の足で歩けるためには、血清アルブミン、動物性タンパク質、食への積極性が重要
- 食行為を中心とした健康リテラシー、高齢者の食育を目指したい

2. 「高齢社会への取り組み」

金井司

三井住友信託銀行(株)

田村直史

三井住友信託銀行(株)

- 退職金が取引のきっかけが多い。顧客、取引残高ともに高齢者が多い
- お金の使い方の特徴：アメリカ、年齢が重なるごとに貯蓄残高減る。日本は減らない
- 信託：「安心サポート信託」「保険金債権信託」「後見制度支援信託」「特定贈与信託」
- ローン：「リバースモーゲージ」事業
- サクセスフル・エイジング支援事業

3. ディスカッション

- 日本は住宅価値の下落が早い。欧米では住宅の中古市場が安定している。高齢社会を考える場合、住宅施策が重要。スマートシティという動きもある
- 「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」に出席した。企業の集まりに2700人参加。120以上のセッションが3日間あった。政治に期待するのではなく、企業がイニシアチブをとってプラットフォームを作っている。話し合っ方向をつかって社会を引っ張っていくことは必要
- 学校教育は50歳まで生きるための教育。それから30年生きるための教育はない。企業ネットワークで30年間生きるための情報を発信することは意義がある

第2回 長寿社会ライフスタイル研究会

日時：2012年9月13日

1. 「高齢社会への対応」

金子哲郎

あいおいニッセイ同和損害保険(株)

- 「ベテランドライバーサポート」サービス…安全運転相談、看護師資格スタッフもいる

- 安全運転の取り組み、事故が増えて保険料に跳ね返るリスクを減らす取り組み
- 高齢者の事故は10年で1.3倍。交通事故死者解剖結果で60例中9例が内因性急死とのデータがある
- 保険に入ることもリスクマネジメント。震災で逃げ遅れた人、避難後亡くなった高齢者が多い
- 医療カウンセリングサービス(セカンドオピニオン、専門医紹介)病気を重症化させない
- 健康安心サービス(介護予防のためのサービス、介護・法律等相談、ドック・健診等紹介)
- 子会社でデイサービスに参入、公的保険と連動し地域交流・地域貢献から学んでいる

2. 「長寿社会をめぐる政策の動向について」

国際長寿センター

- 「高齢社会対策の基本的在り方等に関する検討会」「健康日本21(第2次)」「社会保障と税の一体改革関連法案」「高齢者雇用安定法改正案」「高齢社会対策大綱」について

第3回 長寿社会ライフスタイル研究会

日時：2012年11月6日

1. 「住友生命のCSR」

澤春生

住友生命保険(相)

- 医療・介護分野…保険商品は「遺族に残す」ためから「自分のため」に変わつつある
- 年金式保険…銀行で販売商品売り止めのものもある
- 社会貢献事業…2004年国際アルツハイマー病協会京都大会後認知症に特化。がん支援も

2. 「日本の高齢者は国際的に見て恵まれているのか」

国際長寿センター

- 日本の健康長寿は世界一だが高齢社会における課題に関して合意不足(高齢者像、看取り)がある
- 個人個人が長寿社会に対応していくためのリテラシーを高める必要がある(介護予防、経済的準備、社会との関わり・関係の構築、住まい方、死の哲学)

3. ディスカッション

- 高齢者といっても内実は価値観が違う。団塊世代より若い人はネットワークのつくり方も違う
- 高齢者向けの商品はその時の困ったことをカバーすることを目的としていたが、もう一度社会に戻る「リハビリ」を目的と考えるべきだ。高齢者は社会的資源である

- 国は税収をはるかに超えるサービスを提供している。これが続くわけがない。国家ができないことは民間がやるべき

第4回 長寿社会ライフスタイル研究会

日時：2013年3月6日

1. 「高齢社会への取り組み 住宅の視点から」

大井田篤彦

三菱地所レジデンス(株)

- 首都圏の人口は2015年、世帯数は2025年まで増加が続くがマンション購入適齢期(25-44歳)は2010年がピーク
- 非正規雇用率が上昇し、住宅購入体力は年々減少

2. 「プロダクティブ・エイジングに関する国際比較研究報告」

国際長寿センター

- イギリス、オランダともに2008年のリセッション以来高齢者支援予算は削減されている
- その中で高齢者を対象としたサービスが減少している
- しかし、高齢者の就労、ボランティア参加意識は高い
- 地域ボランティア組織の役割が増大。地域の課題解決の担い手になっている
- 地域ボランティア組織の歴史は長く専門性も確立されており、行政とのイコール・パートナーシップが形成されている

参加者：(所属は2013年4月当時)

- あいおいニッセイ同和損害保険(株)
金子哲郎
佐藤大助
- 味の素(株)
小田嶋文彦
大島曜
- アステラス製薬(株)
竹本裕士
- 住友生命保険(相)
澤春生
町井安文
- 三井住友海上火災保険(株)
山口正統
- 三井住友信託銀行(株)
金井司
玉井一郎
田村直史
- 三菱地所レジデンス(株)
大井田篤彦